

史実と尾ひれから作っていく冒険談

後漢後の三国（魏、呉、蜀）の歴史に基づいて、たくさんの尾ひれ話をつけて、明時代に集大成したのが、今みんなが読む三国志演義ですよね。唐時代のお坊さん・三蔵法師が、様々な困難を乗り越えるながら、インドへと仏教の経典を探し求めに行った史実に基づいて、楽しい創作話を山ほどいれたのが、今みんなが読む西遊記（三蔵法師が、孫悟空、猪八戒、沙悟浄を共に従えてインドへ冒険する）ですよね。もう一つ例を出すと (ru:) «Золотой ключик, или Приключения Буратино»（黄金の鍵、あるいはブラッチャーノの冒険）は、ロシアの (ru:) Алексей Николаевич Толстой（アレクセイ・ニコラエヴィッチ・トルストイさん著）さんが、イタリアのピノキオのお話に基づいて、アレクセイさんの山のような想像力でもって新しい創作話に仕立てあげた冒険話です。さらにイラスト画家さんからも協力の申し出があり、今見るようなすてきな絵本になりました。李姉妹の尾ひれのような話が、李姉妹作の楽しい創作冒険話になっていくことを願っています。